

【五城目町】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末をはじめとするICT環境によって実現を目指す学びの姿
少子高齢化の深刻化や、人工知能をはじめとした先端技術が高度化しあらゆる産業者社会生活に取り入れられたSociety5.0時代の到来など、教育を取り巻く社会情勢は急速に変化している。今後の社会の予測が難しくなるこれからの時代において、自分の良さや可能性を認識したうえで、他者と互いに尊重しあい、多様な人々と協働しながら新たな価値を創造する資質・能力の育成が求められている。

そのためには、ICT技術を活かしながら、子ども一人一人の特性や学習到達度に応じた「個別最適な学び」と、「協働的な学び」の一体的な充実を図り、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた取り組みを進めていくことが必要である。

これらの現状をふまえ、本町の教育大綱が掲げる「郷土をはぐくみ、未来を担う“ひとづくり”」の実現に向かって、新しい時代を切り拓いていく「生きる力」の育成に引き続き取り組んでいく。

なお、ICT機器の活用自体が目的となることのないよう、常に留意しながら、これらの取り組みを進めるものとした。

2. GIGA第1期の総括

国のGIGAスクール構想に基づき、当町では令和2年度に1人1台端末を整備・導入し、デジタルドリルや授業支援ソフト、デジタル教科書をはじめとしたICT技術活用した学習を行う体制を整えることで、「個別最適な学び」「協働的な学び」の実現に資する環境の構築を図った。その後も順次、通信環境のない家庭への貸し出しを想定した無線ルーターや、電子黒板などの設備の導入、ネットワーク機器の更新等を行い、より充実したICT環境の整備を目指した。

そのような環境整備の結果、日常的に学校あるいは家庭における学習にICT機器を活用できるようになりつつあり、在宅における学習に対応するなど、「個別最適な学び」の実現に向けた取り組みとして効果を上げている。

しかしながら、ネットワークにおおきな負荷をかけた際に通信が遅延してしまい、授業の進行に支障が出てしまう、電子黒板等ICT機器の数に限りがあるため、利用できない場合を想定してそれらを活用した授業の研究が進まない、といった課題もみられる。今後、教育現場の現状をつぶさに確認し、必要な環境の整備を、導入・運用コストも勘案しながら進めていく必要がある。

3. 1人1台端末の利活用方策

(1) 1人1台端末の積極的な活用

教員・教科のあいだで情報通信機器を活用する能力や意識に差が生じているため、研修の実施や、教職員間で ICT 機器の利活用に関する情報共有の場を設けるなど、職員全体のスキル向上を図る必要がある。

また、令和8年度中に GIGA 第1期において導入した端末の更新を図り、1人1台端末環境を引き続き維持していく。

(2) 個別最適・協働的な学びの充実

児童・生徒が自分の特性や学習到達度に応じた課題に取り組むことができるよう、デジタルドリルソフト等の活用を進める。また、その学習履歴等のデータを活用することで、個々に応じた指導ができるよう努める。また、児童・生徒ひとりひとりの考えを視覚的に共有できる学習支援ソフトや、複数人で共同して同一のファイルを編集できるシステムを活用し、協働的な学びについても、より充実した環境整備を図る。

(3) 学びの保証に向けた目標

オンラインによる遠隔学習に対応できる環境を維持し、大規模自然災害や感染症の拡大といった環境的な要因により登校ができなくなった場合も、切れ目のない学習を行える体制を構築する。

また、病気療養や不登校など、学校で学びたくても学べない児童・生徒に対しても、オンライン教育を利用した学習について出席扱いにする制度などを活用し、個々の事情に応じたきめ細やかな学習環境の提供に努める。